

校長つうしん No.12



2016.12.5

鈴木 恵一



師走に入りました。冬季休業中の計画を立てていますか？ 3・4年次のなかには、求職活動をしている人、進学的一般受験へ向けて勉強している人もおり、まだまだ気が抜けない日々が続きます。1・2年次は、基礎づくりの時期とはいえ、引き続き「進路探究」を継続していきます。そこで、今回は本校が力を入れ始めた「キャリア教育」について触れることにします。



キャリア教育ってなんだ？



もう 30 年以上も前の話ですが、商業の教員免許を取る課程に「キャリアガイダンス」という必修科目がありました。これが「キャリア (career)」という言葉との最初の出会だったかもしれません。キャリアという言葉は、時代や立場、用いられる場面によって多様に解釈されてきました。それが様々な異なる解釈を生む要因となり、キャリア教育についての共通認識が定まらず、浅学の私は「日本語でいえば就職とか仕事とかそんな感じ？」などと大雑把な理解しかしていませんでした。「キャリア」の語源は、中世ラテン語の馬車の車輪の跡→「轍(わだち)」で、英語では競馬場や競技場のコースやトラックを意味するものだったそうです。

私の学生時代は、女性の社会進出が活発になったときと重なり、「キャリアウーマン」という言葉が流行りました。ちなみに、ネットで調べてみたら、1979 年(昭和 54 年)の流行語のひとつにあげられており、「専門的な能力を生かして長期の仕事につく女性のこと。当時『クロワッサン』などの女性誌がキャリアウーマン的な生き方を提唱した」と書かれています。

これ以降、キャリアという言葉は世に定着し、一般的には「職業・技能上の経験、経歴」と訳され、たとえば「キャリアを積む」「キャリア不足」といった表現が用いられてきました。



時代を現在に移して概観してみましよう。1999 年(平成 11 年)12 月、中央教育審議会(国の教育方針を検討する会議)の答申に、「キャリア教育」という言葉が明示されました。同審議会は「キャリア教育を小学校段階から実施する必要がある」とし、さらに「キャリア教育の実施にあたっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに

目的を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある」と提言しています。なるほど、小学生にも必要なんだ……

この流れを受けて、小学生でも職業体験できる「KidZania キッズニア ※」(東京都江東区豊洲)が1999年にオープンしました。今やアメリカ、イギリス、シンガポール、メキシコ、韓国、アラブ首長国連邦など世界中で展開されている、子ども向けの職業体験型テーマパークです。

※ Kid + z + ania で “ こどもの国 ”

こうしたものが登場した背景には社会構造の変化があげられます。

世界規模の情報技術革新に起因する経済的・産業的環境の国際化、グローバル化がありま
す。情報技術革新は、子どもたちの成長・発達にまで及び、さらに教育の目標や環境にも大きな影響を
与えました。小中高校生のそれぞれの発達段階に応じたキャリア教育が必要になったわけです。

では、高校生のキャリア教育は何をすればよいのでしょうか？ 私が若い頃に認識していた「職業教育 = キャリア教育」でないことは確かです。簿記やIT関連の職業資格を取ることも、ビジネスマナーを学ぶことも大切ですが、もはや机上の理論では太刀打ちできないという現実があります。

頭で理解している職業観や勤労観、机上の学習で身に付けた資格やビジネススキルを携えて社会へ出ても、それをうまく活用できない……という事例が増えています。過去の趨勢が直線的・反復的に循環する動きではなくなっているということです。

学校の対応も過去の理論や常識、成功体験を物差しにしては測りきれないほど変化しています。私たち教員すら、そうした過去の体験と現実のギャップに苦しむことがあります。いま私たちは、変化の振れ幅が大きく多様化する情勢に対応できるよう、大通高校ならではの「キャリア教育」「ソーシャル・インクルージョン(社会包摂)」の実現へ向けて動き始めました。

多くの学校で実践されている自然体験や社会体験等の活動は、他者の存在を認識し受容し、人と人とのつながりや、社会との関係性を学ぶ貴重な機会となっています。



私たちは、他者や社会とのかかわりのなかで、職業人、家庭人、地域社会の一員など様々な役割を担いながら生きています。あなたにとって机上の勉強も大切ですが、将来の社会人としての基盤づくりを、“社会に近い”形で取り組まなければなりません。大通高校が実施しているものは実に豊富です。

ユネスコスクール & ESD(持続可能な開発のための教育)、ちねりあ講座、ミツバチプロジェクト、チャレンジオータム、チャレンジグルメ、IRODORI 大通つうしん(FM 放送)、トマト等野菜栽培、アニマドール(農業体験 & 食育)、鴨々堂ノスタルジア、インターンシップ、まちなか職業体験、カタリバ、ソクラテスミーティング & 卒業生ピアサポート、ラウンドテーブル、国際交流(国際理解 & 多文化共生)、プレゼンテーション大会、キャリア探究、OJT(On the Job Training)、多段包摂連携……

キャリア教育は、単に職業を意識するだけでなく、人としての「生き方」「あり方」の探究でもあります。それだけに、大通高校は外部の方々とのつながりやご縁を大切にしながら、「社会に近い、開かれた学校」であるべきだと私は考えています。

ARTMILE MURAL EXHIBITION AT UNESCO

ESD ～ 持続発展可能な教育 ～

2016年度アートマイル壁画展がユネスコ本部(パリ)にて開催されます。大通高校とフィリピンの学校との共作壁画も展示されますが、日本のNGOの展覧会がユネスコ本部で開催されるのはきわめて希なことのようです。

アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクトの国際協働学習は、ESD(持続可能な開発のための教育)に有効な学習としてユネスコが奨励している取り組みです。

2015年度のアートマイル・ユネスコパイロット事業で制作された壁画を中心に、インドネシア・タイ・ニュージーランド・パキスタン・フィリピン・フランスの学校と共同制作した壁画10点が展示されます。



JAPAN
Sapporo Odori
High School

PHILIPPINES
Philippines Normal
University Institute of
Teaching and Learning

【アートマイル壁画展 at ユネスコ本部】
ARTMILE MURAL EXHIBITION AT UNESCO
【期間】2016年12月12日(月)～16日(金)
【場所】ユネスコ本部 Corridor X-XI, B1
【主催】ジャパンアートマイル実行委員会



Theme: **Festivities**
Awareness of sustainable
local cultures for ESD 2015



ARTMILE MURAL EXHIBITION AT UNESCO

DATE: 12th to 16th Dec. 2016
VENUE: UNESCO Headquarter (7 place de Fontenoy 75007 Paris, Corridor X-XI, B1)

NO	COUNTRY	JAPAN SCHOOL	PARTNER SCHOOL	MURAL
1		Minami Tsurumaki Elementary School	Groupe Scolaire Carpefont	
2	FRANCE	Tenryo Elementary School	Collège Saint Paul-Riezé	
3		Kobe University Secondary School	LEGT Le Likés	
4		Higashi Atago Junior High School	SMP Islamic Al Azhar 9	
5	INDONESIA	Showa Women's University Junior and Senior High School	SMP Islam Tugasku	
6		Miyagi Tomiya High School	SMA Negeri 10 Malang	
7	NEW ZEALAND	Higashiura Ogawa Elementary School	Ashburton Borough School	
8	PAKISTAN	Sherry English School	Modernage Public School & College	
9	PHILIPPINES	Sapporo Odori High School	Philippines Normal University Institute of Teaching and Learning	
10	THAILAND	Osaka Semboku Senior High School	Suksasongkro Chiang Mai School	